

CEATEC 2023 出展のご案内

当社は、10月17日から幕張メッセ(千葉県)で開催されるCEATEC 2023に出展します。今年のCEATECは、“経済発展と社会課題の解決を両立する「Society 5.0」の実現を目指し、あらゆる産業・業種の人と技術・情報が集い、「共創」によって未来を描く”をテーマに開催されます。

当社ブースでは、「フジクラが“つなぐ”あした社会」をコンセプトに、当社製品が近未来の社会でどのように使用され、またどのような世の中を実現するのか、情報通信とカーボンニュートラルの視点から紹介します。

当社製品がどのように“あした”社会をつなぐのか。ぜひご来場の上お確かめください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



CEATEC 2023 出展コンセプト

フジクラが “つなぐ” あした社会
～「情報通信」と「カーボンニュートラル」への貢献～

高温超電導で
CO₂を出さない
発電!?

EVへの充電を
革新するケーブルが
あるってホント?

ミリ波通信って
なあに?

デジタル社会に
欠かせない
光ケーブルや
電子部品の秘密は?

ヒトとクルマって
どうやって
つながるの?



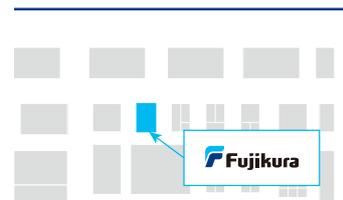
日時

2023年10月17日(火)～10月20日(金)
10:00～17:00

場所

幕張メッセ HALL5 キーデバイスエリア
フジクラブース：K005

HALL5 キーデバイスエリア



2023
10

来場登録はこちら

CEATEC 2023 フジクラ特設ウェブページ

CEATEC 公式サイト
<https://www.ceatec.com/ja/>



<https://www.ceatec.com/ja/exhibition/detail.html?id=112>

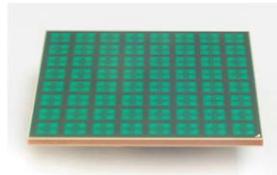


展示製品
01

情報通信への貢献

ミリ波無線通信モジュール

当社ブースでは、28GHz帯ミリ波フェーズドアレイアンテナモジュール(PAAM)『FutureAccess™』、および60GHzミリ波無線通信モジュールを紹介します。既存の無線機器に比べ電力効率に優れた当社のモジュールは、無線ICとアンテナを一体化したモジュールです。お客様における高速大容量無線通信の導入を短い開発期間で実現し、また、電力消費の削減に貢献します。



28GHz PAAM



60GHz 無線通信モジュール

ミリ波無線通信モジュール特設サイト
<https://mmwavetech.fujikura.jp/ja/>



●SDGs 17目標に該当するポイント

当社開発のミリ波無線通信モジュールは、大容量な無線通信を低コストかつ低消費電力で実現し、安全かつ強靱なインフラの発展に貢献します。



✉ 電子応用技術 R&D センター : mmwavetech@jp.fujikura.com

展示製品
02

情報通信への貢献

データセンタ向け MDC/MMC 光配線ソリューション

次世代超小型フォームファクタ MDC デュプレックス光コネクタ及び MMC 多心光コネクタを採用したソリューション製品を開発しています。当社ブースでは、MDC 及び MMC 光コネクタを実装したパッチコードとパッチパネル、光コネクタ用クリーナの紹介します。



MDC 及び MMC 光コネクタを含む光コンポーネント及びソリューション特設ウェブサイト
<https://www.opticalcomponent.fujikura.com/>



●SDGs 17目標に該当するポイント

当社の次世代超小型光コネクタ技術及び光ケーブルリングソリューションを通じて次世代光ファイバネットワーク構築を支援し、世界中の産業や生活の基盤となる社会インフラの発展に貢献します。



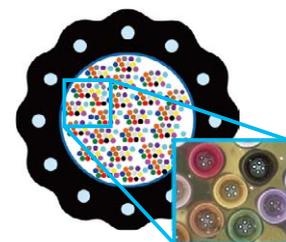
✉ 光コンポーネント事業部 : opticalcomponents@jp.fujikura.com

展示製品
03

情報通信への貢献

マルチコアファイバケーブル

高密度光ファイバケーブルの需要が高まる中、1本の光ファイバの中に複数のコアを配置したマルチコアファイバに注目が集まっています。現行光ファイバと同じ寸法に4コアを収容した4コアファイバと細径高密度型ケーブル技術との組み合わせによる、飛躍的なケーブル高密度化に寄与する技術を紹介します。加えて、将来技術の候補として高密度化を追求した32コアファイバを紹介します。



4コアマルチコアファイバと実装したケーブルの断面写真

●SDGs 17目標に該当するポイント

光ファイバの進化によりネットワークの大容量化に貢献し、情報通信インフラの基盤を支えます。



✉ 光応用技術 R&D センター : wwwadmin@jp.fujikura.com

展示製品
04

情報通信への貢献

細径高密度型光ファイバケーブル

近年、5G、IoT、生成AIなどの発展によるデータ通信量の爆発的な増大に対応するために、光ファイバの多心化および高密度化が求められています。

当社ブースでは、光ファイバの高密度実装により大容量の伝送を可能とした細径高密度型光ファイバケーブルを展示します。細径高密度型光ファイバケーブルは、多心化・細径化・軽量化を実現した究極的なケーブル構造とする事で世界最大級の高密度実装を実現したケーブルであり、次世代コミュニケーション基盤の構想“IOWN”の構築に貢献していきます。



●SDGs 17目標に該当するポイント

当社独自の技術を生かしたケーブルは、5Gの進展やネットワークの大容量化に対応し、安全かつ強靱なインフラの発展に貢献します。また、環境にやさしい部材を使用することで、つくる責任つかう責任を果たします。



✉ 光ケーブル事業部 : telcon@jp.fujikura.com

展示製品
05

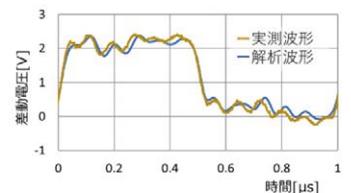
情報通信への貢献

車載高速通信ワイヤハーネス

CASEと呼ばれる電動化、自動運転、コネクティビティなどの急激な革新が進む次世代自動車。車載電装品に必要な通信速度は年々高速化しており、CAN FDやEthernetといった高速通信プロトコルが採用され始めています。当社ブースでは開発中の高速通信向けのケーブルやシミュレーション技術について紹介します。



STP*ケーブル
*Shielded Twisted Pair



解析波形と実測波形の比較

●SDGs 17目標に該当するポイント

当社の高速通信向け製品は車内通信の高速化を実現し、自動運転レベルの向上に貢献します。



✉ 電装技術部 : wwwadmin@jp.fujikura.com

展示製品
06

情報通信への貢献

情報端末・情報ストレージを支える電子部品

小型化や高度化がすすむ電子部品。当社ブースでは、フレキシブルプリント基板(FPC)をはじめ、データセンタやモバイル製品、車載用機器で用いられるコネクタ、メンブレン、電子ワイヤ、サーマルソリューション等の製品をご紹介します。

当社はお客様に信頼されるパートナーとして、高密度・高精細・多機能化の要求に対し高度な技術で応え、お客様の最先端アプリケーションの創出に貢献していきます。



メンブレン製品 (静電容量式スイッチ)



サーマルソリューション

●SDGs 17目標に該当するポイント

情報端末機器や、情報ストレージ機器を支える電子部品の高性能化を通じ、情報通信インフラの更なる発展に貢献します。



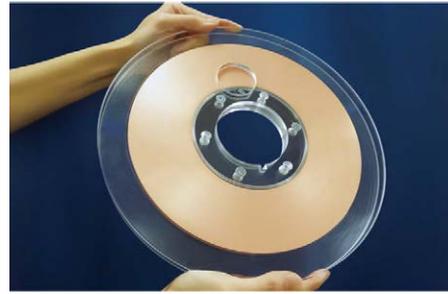
✉ 電子部品・コネクタ事業部門 : askecd@jp.fujikura.com

カーボンニュートラルへの貢献

展示製品
07

高温超電導線材

当社は、業界のトップランナーとして20年以上レアアース系高温超電導線材の開発を続けてきました。高温超電導体は液体窒素温度域での動作が可能であり、その応用範囲は広がりつつあります。世界各国でカーボンニュートラルへ向けた動きが進められる中、核融合発電技術、航空機の電動化をはじめ、冷却時の省電力化に向けた医療用MRI(核磁気共鳴画像)装置などの技術にも注目が集まっています。当社ブースでは超電導の魅力と不思議さを体験できる展示とデモを通じ、カーボンニュートラル社会に向けた高温超電導の可能性について紹介します。



●SDGs 17目標に該当するポイント

当社の高温超電導技術を生かしたカーボンニュートラルへ向けた機器開発や、人類の健康につながる医療分野の機器開発につながります。



✉ 超電導事業推進室 : asc-sc@jp.fujikura.com

カーボンニュートラルへの貢献

展示製品
08

EV 充電用液冷ケーブルコネクタ

近年、EVに搭載される蓄電池の大容量化に伴い、充電時間短縮のために、急速充電器の高出力化が強く望まれています。そこで当社は、従来の3倍強の高出力急速充電に対応したEV充電用液冷ケーブルコネクタを開発しました。この製品では、ケーブルおよびコネクタ内に冷媒を循環させる液冷技術により、充電器の高出力化に伴う発熱量増加の問題を解決します。また液冷式とすることにより、ユーザがストレスを感じることなくケーブルコネクタを車両へ接続できるような重量とサイズを実現しています。当社ブースでは、液冷ケーブルコネクタの充電操作デモ機にて取扱い性を体感できます。



●SDGs 17目標に該当するポイント

当社の開発した液冷ケーブルコネクタは、EV普及の促進につなげることで脱炭素社会の実現に貢献します。



✉ 電装システム開発部 : wwwadmin@jp.fujikura.com